

# 町民文芸



## 只見短歌会

十一月詠草

大塚栄一

指導

藁塚の如く刈田に群るる猿嫌われ居るもしぐさ愛らし  
目黒 富子

音信も絶へて久しき友よりの便りは息子逝きと言ふに  
馬場 八智

秋遅き紅葉のなか初雪の降りし山並彩りの冴ゆ  
新国由紀子

日は照るも雪の予報に風寒く大根摘む人畑に賑はふ  
渡部ゆき子

看護師の患者呼び出す声耳にわれ待合に歌集読みをり  
関谷登美子

日めくりも捲らず忙しき日々の過ぎ手帳の中も空欄多し  
渡部ヨリ子

リハビリの為に歩くと今日も言ふ娘に促され押し車押す  
新国 洋子

(出詠順)

## 只見俳句会

十二月定例会

目黒十一

指導

池のこいおよぐ背鰭に秋深し  
声かけて声かけられて刈田道  
都

爽やかや経読む声は紫衣の僧  
見上ぐれば戸を閉めかねる夕月夜  
味代子

声かけて囲いたためらう返り花  
早く見てと友の電話や冬夕やけ  
弘子

千し柿の暖簾も宿の風情かな  
冬ぬくし術後の夫と向い居て  
一恵

かもしかとよく遇う峯の松迎え  
其其の友の計いくつ十二月  
恒夫

秋深し内耳にぎわういとまかな  
折れやすき葱の長さを囲いけり  
礼

語ることも多く残して雪に入る  
食い初めは新米飯と定めけり  
一穂

焦るとも一つずつなり冬支度  
ストーブも定位置に付け着火かな  
修一

白雪の尾根キラキラと初明り  
初湯殿百寿のふぐり伸ばしけり  
吉見

芋巻岳に雲巻くさまも師走かな  
挨拶も短かき友や雪催い  
幸生

枯れ葉舞う学生街に待ち人あり  
サクサクと枯れ葉踏みしめ急ぐ人  
信

折れやすき葱の長さを囲いけり